

第3学年 社会科 学習指導案

福岡市立城原小学校 教諭 藪内 真志

1. 単元名 暮らしのうつりかわり —道具のうつりかわりとくらし—

2. 単元の目標

- ・ 生活の中で使われる道具の変化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (知識・技能)
- ・ 使われる道具の変化や、人々の生活との関連を考える力、考えたことを表現する力を養う。 (思考・判断・表現)
- ・ 学習問題を追及・解決するために、道具の変化について意欲的に調べ、暮らしの変化と人々の思いとの関連を粘り強く考え、調べたことや考えたことを発表しようとする主体的な学習態度を養う。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、児童の実生活にとってより身近な道具である炊飯器やガスレンジ、洗濯機などを教材として取り扱う。そして、昔の道具と今の道具とを比較し、昔の道具の様子や使い方、使っていたころの人々の暮らしの様子について具体的に探究することを通して、今の生活がこれまでの生活の積み重ねに支えられていることをとらえるようにすることをねらいとしている。

昔から現在に至る道具の変化について、実物や写真等の具体的資料や祖父母や父母それぞれの世代へのインタビューを活用したり、年表に表したりすることを通して、暮らしに関わる道具が人々の思いに合わせて変化してきたことや、今も昔も人々の思いや工夫に合わせた暮らしのよさがあることを具体的に考えることができるようにする。

また、今の道具はとても便利な反面、電気を必要としていることに触れ、その電気を作る際に地球環境に悪影響のあるCO₂を出す発電が多く行われていることを取り上げる。そして、これからも持続可能な社会にしていくために自分たちにできることを考えることで、便利な暮らしと環境に優しい暮らしの大切さに気付くことができるよさがある。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまで自分たちの住む地域について調べてきた子どもたちは、古くから残る建造物や地域の歴史にかかわりのあるものを見つけてきている。しかし、時代をさかのぼって考えたり、昔の暮らしと現在の自分の生活を結び付けて考えたりはしてきていない。また、現在の生活には電気はなくてはならないもので、その電気をつくるために地球温暖化が進んでいることにまで考えが至っていない児童がほとんどである。

そこで、昔の道具を実際に使ったり、当時の暮らしを知る人に直接話を伺ったりするなど体験的な活動を取り入れながら、当時の暮らしや今の便利さについての人々の思いに触れ、持続可能な社会づくりのために自分にできることを考えることは、大変意義深いと考える。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、昔の道具を提示し、その道具を使う大変さやその道具を使っていたころの人々の暮らしを具体的に想像させる。そして、道具の変化に伴って、わたしたちの暮らしがどのように変わってきたのかを考えさせる。その際、道具の変化と電気とのつながりについて扱い、「電気を使う生活が持続可能か」について考えさせるようにする。そのことで、発電と地球環境のつながりに着目し、今後の自分たちがどのような行動をすれば、便利な生活を続けることができるかという課題に対して、主体的に解決方法を模索すると考えた。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性・・・発電は自然と密接な関係にあり、火力発電などのCO₂を多く出してしまう発電を続けていけば地球環境に大きな負荷をかけること

連携性・・・これからの発電は、電力会社だけが努力するのではなく、私たちが地球全体のことを考えて努力することが大切であること。

責任性・・・私たちが道具の使い方や電力の消費を変えていくことが何よりも大切であること。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

環境に配慮した道具の使い方や電力の消費をしているか、自分の生活を見つめ直す。

多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

「電機・電力会社も、消費者も、地球環境も豊かになるような電力消費とは？」について考える。

コミュニケーションを行う力

これからの道具の使い方や電力の消費について、意見交流を通して自分の考えをつくりあげる。

つながりを尊重する態度

CO₂を多く出す火力発電が多いことは、地球規模の課題と密接に関わっているので、自分たちが変えていかなければならない。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代内の公正

電機・電力会社も、消費者も、地球環境も豊かになるような電力消費を追求することが大切である。

自然環境や生態系保全を重視する

環境に配慮した発電でないと、環境に負荷をかけてしまい、「便利な生活」とは言えない。

幸福感を大切にする

時間の短縮や手間がかからないこと、楽をできることが「本当の豊かさ」ではない。

・達成が期待されるSDGs

- 7 持続可能な電力の確保
- 12 持続可能な生産・消費形態の確保
- 13 気候変動を抑える行動

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 炊事や洗濯など家事に使用する道具や明かりや暖をとる道具など生活の中で使われた道具について、体験や聞き取り調査をして調べ、必要な情報を集め、人々の生活の様子を理解している。</p> <p>② 発電と地球環境のつながりについて、本やインターネットで調べ、電気の作り方のよいところや問題点について理解している。</p>	<p>① 炊事や洗濯など家事に使用する道具や明かりや暖をとる道具など生活の中で使われた道具に着目して、問いを見だし、人々の生活の様子の変化について考え表現している。</p> <p>② 環境に優しい発電を増やすために、自分にできることについて考え表現している。</p>	<p>① 人々の生活の移り変わりについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>② 道具の変化と電気とのつながりや発電と地球環境のつながりについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全6時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○ 昔の道具の使い方や当時の暮らしを考えることで、今後の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうやって使っていたのだろう。 ・ 昔の道具は使うのが大変そうだな。 ・ 上手に使うには、知恵やコツがいりそうだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の道具を提示し、その道具を使う大変さやその道具を使っていたころの人々の暮らしを具体的に想像させるようにする。 	△ウ1
2	<p>○ 昔の道具や暮らしについて、本を見たりインタビューをしたりして調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間や手間がかかって大変だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道具の変化に伴って、わたしたちの暮らしがどのように変わってきたのかを考えさせる。 	△ア1

	<ul style="list-style-type: none"> ・電化製品って便利だな。 ・家事の時間が短くなって、他のことができる時間が増えたんだな。 		
3	<p>○ 人々の暮らしの変化について、昔の道具と今の道具を比べながら考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気が使えることで、生活が便利になった。 ・ほとんどの道具は、電気がないと使えない。 ・電気を使う生活は、これからも続けることができるのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具が便利になって、人々の生活がどのように変わったのかを考えさせる。 ・便利になった道具を使うためには電気が必要だということをつかませ、電気を使う生活は持続可能かを考えさせる。 	△イ 1
4	<p>○ 電気の作り方について、よいところや問題点を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーで発電すると、地球環境にやさしい。 ・火力発電では、二酸化炭素が出て、地球温暖化につながっているんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発電の種類を調べる中で、発電と地球環境という視点でよいところと問題点をとらえられるようにする。 	△ウ 2
5	<p>○ 発電と地球環境のつながりについて、地球温暖化という視点で問題点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本で多く行われている火力発電によって、多くのCO₂が排出されているんだな。 ・環境に優しい発電を増やさないと、電気を使う生活は続けることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発電によって地球温暖化が進んでいることを理解させる。 ・環境に優しい発電を増やすための取り組みが、たくさん行われていることを理解させる。 	△ア 2
6	<p>○今後の自分たちがどのような行動をすれば、便利な生活を続けることができるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節電をするなど、電気の無駄使いをなくしていく。 ・CO₂排出を減らす努力をしている会社の商品を買う。 ・ベルマークを集めたり、3Rをしたりするなど、環境のことを考えた暮らしをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に優しい発電を増やすために、小学3年生の自分にできることを考えさせる。 ・課題を自分だけで解決しようとするのではなく、家族や他学年の児童などの周りの人に広げる方法を考えさせる。 	△イ 2